

棟方志功芸術に見られる縄文的特質

蝦名敦子

棟方芸術と縄文文化に着目。1万年以上に及ぶ縄文の造形について、土器や土偶を通して、装飾性の推移について検討。さらに棟方の板画における装飾性と比較考察する。その結果、以下の共通項を抽出した。1)制作の目的-「念」、2)モチーフとしての女性像、3)装飾性、4)縄文晩期の土器や土偶に見られる文様、5)視点の問題-オールオーバーなどである。両者は共通して地と図の関係において、装飾性が極限にまで追求されているのである。